

さくらの里

出来上がりが待ち遠しい みそ作り講習会を開催



コロナの影響で日程変更はありましたが、今年もみそ作り講習会を開催しました。今年も参加者が多く、2月21日と3月9日の2回に分けて行いました。福嶋亮一さんのご指導で、初めての方もベテランの方々と一緒に、和やかな雰囲気の中でスムーズに仕込みを完了することができました。美味しい手作りみその出来上がりが、今から楽しみです。

令和3年度 各専門部から活動報告と今後について

地域すこやか部

部会長 芳賀 卓

今年度は新型コロナウイルスの影響で、様々な制限や対策を実施した中で、活動となりました。9月のウォーキングは、天候にも恵まれ、健康づくりに加え、蚕桑の歴史を知る有意義な活動となり、大変好評でした。11月のSDGs勉強会は、持続可能な社会の実現に向けて、蚕桑の課題と可能性を考える良い機会となりました。ウォーキングとSDGs勉強会は来年度も継続したいと考えています。それから今年度の取り組みで、参加した方へのアンケートと活動した内容を「活動報告」として発行したことは、今後の活動の資料として大変良かったと思えます。来年度もコロナ禍での活動に悩まされ、ご協力をお願いいたします。



地域振興部

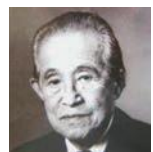
部会長 古名順二

前年度から引き継いだ3つのテーマ
 ①有害鳥獣対策の啓発
 知る事から始めるとし、問題に取り組んでいく杉沢地区を視察しました。詳細は1月の館報をご覧ください。
 ②地域企業の情報発信
 部員自らアポ取り、取材、纏めを行い、今年度2件「地域で輝く企業」としてレポートを発行する事が出来ました。
 ③新たな観光資源の発掘
 様々な案が出る中、実現まで至る事ができませんでした。
 全体通して、部員から「こうすれば良かった」などの話が出ました。反省する事でもありますが、次年に期待が持てるうれしい事だと私は思います。最後になりますが、コロナ禍で大変な中ご協力頂いた皆様にご心からお礼申し上げます。ありがとうございます。



今、伝えたいことは ⑬

努力する人は希望を語り、
怠ける人は不満を語る。



井上 靖

これからの予定

- 3月17日(木) つる細工講習会
- 3月22日(火)・23日(水) スマホ教室 (午前)
- 同日 エクセル講座 (午後)

※先月のセンター報で3/22・3/23エクセル講座の時間を午前と記載しましたが、両日PM1:30~3:30の誤りでした。お詫びして訂正させていただきます。

3月25日(金) おりがみ教室

青パト車での見守り活動 ご協力ありがとうございました

今年度の青パト車の見守り活動に延べ126名(46回実施)と大勢の方からご協力いただきました。春に青パト出発式を行い、毎週木曜日実施していますが、防犯連絡員はじめ民生児童委員、更生保護女性会、むつみ学級生、一般の方にご協力いただき、ありがとうございます。
 コロナが長引く状況の中、たくさんの方々の協力により、地域の子どもの見守り活動を継続できています。子ども達の安全を守る活動にこれからもご協力をよろしくお願いいたします。



活動-2 SDGs 勉強会 持続可能ビレッジ「こぐわ」をめざして!

○活動の概要と目的

東北芸術工科大学の三浦秀一教授を講師にお招きして、SDGsとは何か、またSDGsが掲げている17の目標から、蚕桑地区が抱える課題とその課題解決に向けた蚕桑の可能性についてみんなで考える場にする。SDGsの活動は「蚕桑地区桜の里づくり推進委員会」の地域づくり計画と共通する部分があり、今後のコミセン活動に役立つ蚕桑の未来を考える勉強会にする。

- 実施日 第1回 令和3年11月14日(日曜日) 参加人数:44名
- 第2回 令和4年1月30日(日曜日) *新型コロナウイルス感染防止のため中止

○講師紹介

三浦先生は、東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科の教授で、持続可能な地域を実現していくために、住宅からまちづくりまで幅広く調査し、省エネや再生可能エネルギーなど、新しい住まいやまちの未来を提案しています。また数年にわたり蚕桑地区で調査・研究を行ってこられた方で、環境やSDGsの第一人者です。



<入門編>

○SDGsとは何か?

①SDGs(持続可能な開発目標)って何だろう

世界中のすべての人々が豊かに暮らせる環境と社会をつくるために一時的ではない未来までつづけられる**開発目標**が必要になった。持続可能な**開発目標**「SDGs」は全部で**17**ある。

*2015年9月25日に開催された「第70回国連総会」において、国連に加盟する193カ国すべてが、2030年までという期限付きの**17**の**目標達成**を約束した。

②具体的な目標として設定された169のターゲット

17の目標にそれぞれ具体的な目標「ターゲット」を設定し数値や問題解決の手段を示すことで確実なゴールを目指す。



③どうしてSDGsが必要なのか

限界に達して悲鳴をあげている地球!

- 環境問題 ⇒ 地球温暖化による異常気象の頻発
- 社会問題 ⇒ 貧困や教育機会の不平等、紛争の長期化
- 経済問題 ⇒ 経済格差の拡大

このまま何も手を打たなければ地球上に住む私たち全員の生活そのものが破壊されてしまいます。だからこそSDGsは人類共通の課題であり、私たちに課せられた義務でもあるのです。

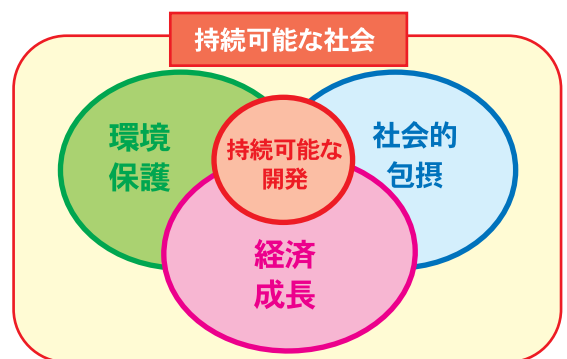
④SDGsに求められるのは3要素の調和

「**経済成長**」とは経済活動を通じて富や価値を生み出すこと

「**社会的包摂**」とは社会的に弱い立場の人を含め一人ひとりの人権を尊重すること

「**環境保護**」は地球の自然を守ること

3要素は一体のものでなければならず、単独で進めても持続可能な開発にはつながりません。



○三浦先生からのメッセージ



- ・SDGsをすべてわかる必要はない。SDGsは課題解決です、それをどのように実践するかが重要!
- ・我々の世界を転換する! 誰ひとり取り残さない! 2030年にどうなってほしいか!
- ・蚕桑の「財産」(土地・森・水)、「学び」(達人・女性・外から来た人の声)、「伝統」(人足など)の活用
- ・蚕桑の再生可能エネルギーを新しい産業へ!そしてお金の流れを変える!蚕桑の循環を考える!
- ・誰もが参加する蚕桑!

<実践編>

○SDGsの導入(進め方)

①ステップ1「SDGsを理解する」





SDGsの本質を知り、SDGsに取り組む意義を考え、コミセンの役割や責任を理解することから始めましょう!

SDGsに取り組む目的を理解し、SDGsを常に意識して生活していこう!

②ステップ2「優先課題を決定する」

蚕桑地区がSDGsに取り組むことによって発生する正と負の影響を評価し、優先する課題を決定する。

SDGsの17の目標に対する蚕桑地区の課題とその解決に向けた蚕桑地区の可能性を抽出し、その中から優先する課題を決定する

17の目標	蚕桑地区の課題	蚕桑地区の可能性
 1 貧困をなくそう	高齢化 ひとり暮らし	売店
 2 気候をゼロに	農地が空いている(使われていない)	蚕桑の農地
 3 すべての人に健康と福祉を	冬は寒くて雪が多い	蚕桑の健康 *ウォーキングなど
 4 質の高い教育をみんなに	後継者不足	蚕桑の学び *達人の知恵

③ステップ3「目標を設定する」

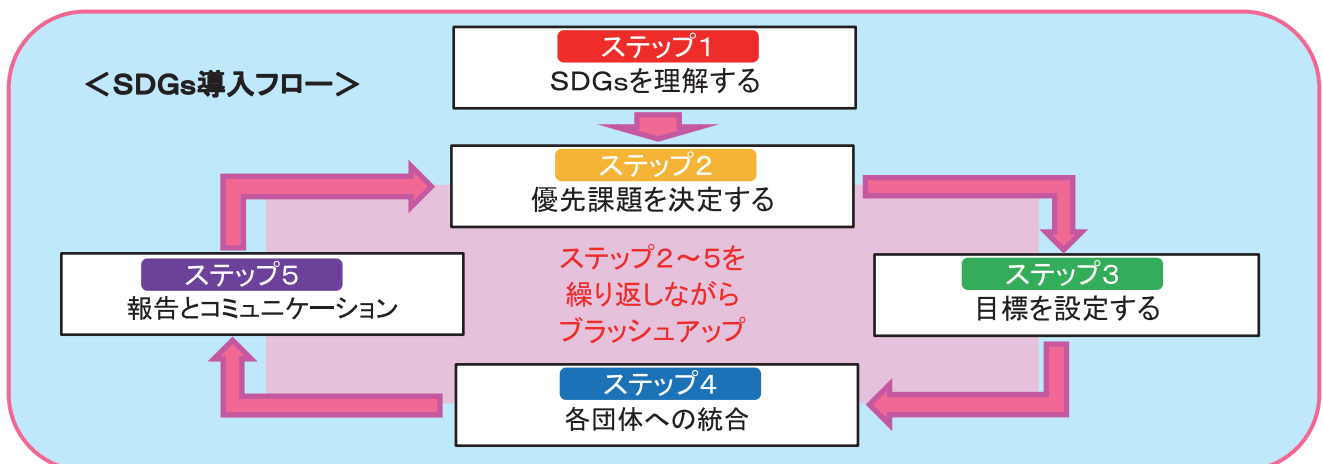
「優先事項」を蚕桑に住む人全員が共有し、成功事例などから目標を設定する。

④ステップ4「各団体との統合」

蚕桑地区すべての活動団体にSDGsを取り込む。また、町やほかの地区の活動団体との提携も考える。

⑤ステップ5「報告とコミュニケーション」

SDGsへの取り組みに関する進捗状況を定期的な報告と意見交換でコミュニケーションを図る。



○活動の総括

今年度2回の勉強会を計画しましたが、新型コロナウイルスの影響で1回の開催となり、とても残念でした。内容としては、蚕桑地区の課題や可能性を考える良い機会となりましたが、参加者の年齢層も幅広く、全員が満足できる勉強会とはならなかったのではと反省しています。

SDGsへの取り組みは、「蚕桑地区桜の里づくり推進委員会」が掲げる地域づくりに通じる活動として、来年度も勉強会を企画しSDGsに関心を持っていただき、蚕桑地区の持続可能な未来をみんなで考えていきたいと思います。

令和3年度 各専門部から活動報告と今後について

生涯学習部

部会長 佐々木誠司



今年度は、恒例の蚕桑地区文化祭に続き、昨年は中止とした高玉芝居の定期公演も、それぞれ飲食の禁止や参加人数の制限などもありましたが、密にならな
いたための工夫をすることにより、無事に開催することが出来まし
た。この実績と経験は、少な
ならず、まだ収まらないコロナ禍
の克服に向けた第一歩につなが
るのではないかと思っております。
来年度は、これまでの恒例事
業を継承して行くとともに、離
れて暮らす家族と気軽に会えな
くなっている状況がもう少しばら
く続くことを鑑み、『スマホを
使つてのテレビ電話の講習会』
なども、スマホは苦手という方々
を対象にぜひ企画してみたいと
考えています。皆様の多くの参
加とご協力をお願いします。



地域安全部

部会長 加藤 晃一

令和3年度もコロナ禍の中で活動も制限せざるを得ない状況です。活動も四月九日の蚕桑小学校で青パトの出発式を皮切りに夏休みの地域安全発表会独自の青パトによる広報活動、十月十八日の蚕桑キッズでの防災クイズの実施、十月二十日の役場防災管財係長等による防災士研修会、十一月二十八日の山形県防災士研修会によるマイ・タイムライン作成セミナーを開催等を実施することができま
した。
しかし、生活環境整備活動の目玉でもありません。この前の地域安全部の会
議でも「蚕桑小学校やコミセン付近を
対象にするのではなく、各地区で
持ち回りのようなことで実施した
どうか。」と言ったことなど、出た
ところから、さらに検討の余地もあ
るかと考えています。今年度、地
域の安全に合わせた必要な策を
考えていきます。



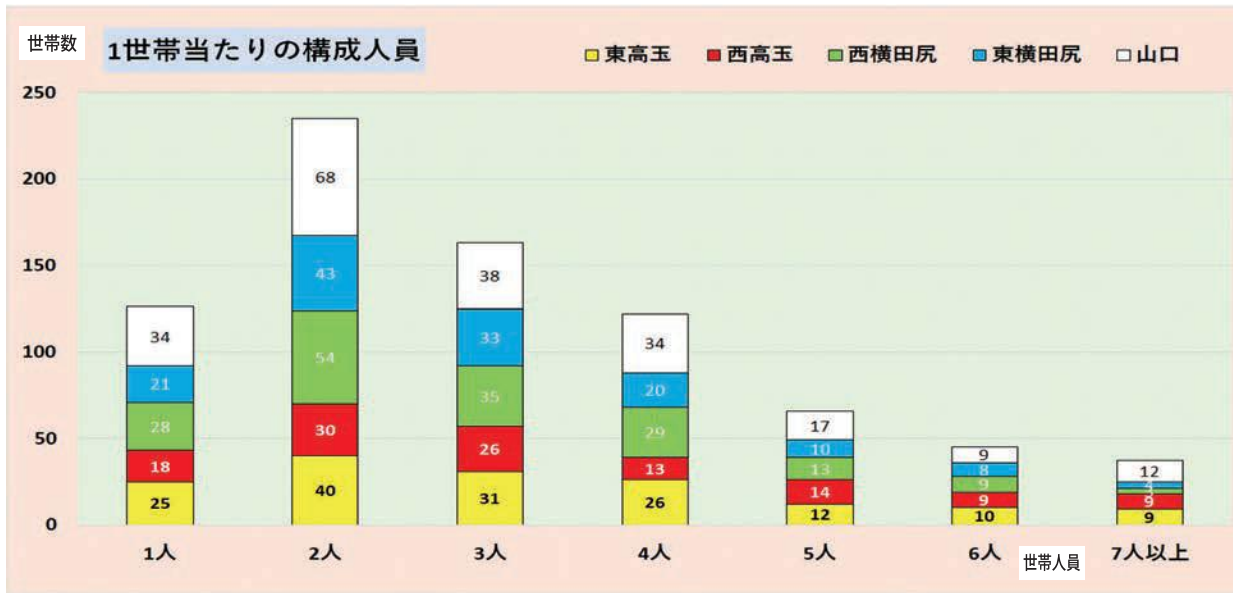
令和3年度「地域づくり推進交付金」事業報告

地域課題の解決や地域の活性化のために利用できる「地域づくり推進交付金」は、蚕桑地区には今年度1,778,000円が交付されました。今年度で4回目の取組みとなり、以下の事業に利用させていただきました。

《事業名》	《完了時期》	《金額》
① 小松文庫用書架の設置	令和3年 9月	116,160円
② 花壇用散水栓工事	令和3年11月	220,000円
③ 奨学桜の東屋の支柱修理	令和3年11月	379,610円
④ 十二堂桜枯れ幹切り及び支柱設置工事	令和3年12月	105,600円
⑤ コミセン館内放送改修工事	令和4年 1月	255,200円
⑥ 専門部事業	令和4年 3月	600,000円
⑦ 山口の四季2020の編集とタイムカプセルの作成	令和4年 3月	101,430円
合計		1,778,000円

次年度は、地域の要望をお聞きしながら、より充実した交付金の使い方をしたいと考えております。従来ソフト事業に加えて、各地区におきまして交付金を利用して実施したい事業がありましたら、桜の里づくり推進委員会役員になられている各地区の区長を経由の上、申請していただきます様よろしくをお願いいたします。

蚕桑地区は何人家族が多いかな？



	東高玉	西高玉	西横田尻	東横田尻	山口	合計
1人	25	18	28	21	34	126
2人	40	30	54	43	68	235
3人	31	26	35	33	38	163
4人	26	13	29	20	34	122
5人	12	14	13	10	17	66
6人	10	9	9	8	9	45
7人以上	9	9	3	4	12	37
合計	153	119	171	139	212	794

令和2年10月に行われた国勢調査の集計データを入手しましたので、蚕桑地区の1世帯当たりの人数別グラフを作成しました。1人の世帯は16%、1人及び2人世帯の合計では45%となっており、5年前の調査結果に比べて核家族化がより一層進んでいることがわかります。6人以上の世帯は、前回調査の14%から10%に減少しており、3世代のにぎやかな家庭を築いていた昭和の時代が懐かしく感じますね。

しらたか古典桜の里 さくらまつりのお知らせ

◎期間 4月16日(土)～4月24日(日)
※開花状況にあわせて実施予定

◎売店 釜の越農村公園内に設置予定
※コロナ感染拡大の状況により判断されます

2年ぶりに開催予定のさくらまつりですが、安心安全を最優先に実施されます。高玉芝居については現在のところ未定となっております。

山形県に出されていた新型コロナウイルスの重点処置が、まん延防止等重点措置が2月20日解除になり、オミクロン株の感染ピークが過ぎ、「第6波」の出口も遠くないと思われ、冬コロナ禍の中で開催された冬季オリンピック北京大会では、日本が金メダル3個を含む冬季五輪最多の18個のメダルを獲得する明るい話題があり、春の話しがなるとなりました。このころは、雪解けた後も、日差しが強く、活発な活動が楽しめるようになります。

(滝田)

あきがき



山柳

蚕桑交柳社作品

課題 「喜び」
正夢か頼をつねって確かめる
喜びは家族で分かち合う笑い
母は太陽回転軸となる笑顔
課題 「安心」
笑いには人に安心届けます
太陽の匂う野菜はパリッパリ
風評に裁かれていく安心度
ちよっぴりの酒を交わしている至福
安心の代償財布風邪を引く

八重 案柳
一 泉 凡古
杯 月 杯